

沙和 宋一（さわ・そういち）

1、プロフィール

殆ど独学で文学を勉強。昭和の初め弘前に移り青森県人となってから文学活動に打ち込み、小説を主軸に創作活動を展開する。生涯、海を描き、漁業問題の研究家でもあった。

<生没>

1907(明治 40)年9月 20 日 ~ 1968(昭和 43)年1月1日

<代表作>

『オホーツク海』『北海の漁夫』『民謡ごよみ』『越年花嫁』『生活の探求』(未完)

<青森との関わり>

東奥日報社出版部長、調査部長、論説委員。「月刊東奥」編集長を務め“文学県・青森”のために尽力した。

2、作家解説

小説家、児童文学者。茨城県生まれ。本名山中勝衛。出生地の尋常高等小学校中退。以後独学。生まれ故郷を離れ、東京で印刷工をしながら下積み生活を送る。昭和3年から 12 年まで弘前の茶太楼新聞社に勤め、左傾し検挙された体験もある。10 年には「東北文学」を弘前から創刊し、県内にとどまらず東北各県から同人を募り、指導者的役割を果たした。また、13 年東奥日報社に移り、21 年まで長いこと勤務し、地方の文学運動に尽力した功績は大きい。

主な作品に『オホーツク海』『北海の漁夫』『民謡ごよみ』(第5回農民文学有馬賞・昭和 17 年度)『越年花嫁』等があり、戦後には見るべきものはあまりない。長年住み馴れた津軽から埼玉県大宮市に移住し、長編小説『生活の探求』をライフワークとして書き続けたが、完成をみない昭和 43 年正月に一酸化炭素中毒のため自宅で死去。

若い頃、カムチャッカで漁夫をしたこともあって、生涯海を描き、漁業問題に関心を寄せた。総じて真摯に現状認識にあたらうとする態度が目立つ作風であった。

3、資料紹介

○『民謡ごよみ』

図書

1970(昭和 45)年1月 30 日

197mm×157mm

「…音もなく牡丹雪が降りだした。堆肥のにおひがこもつた、なまあたたかい雪景色である」冒頭文の一部。素朴な一人の青年を中心に、北国の貧しい農村の生活風景を描く。地方在住ながら作者を全国的に有名にした、第5回「農民文学有馬賞」受賞作品。